

## タウンミーティング（富山会場 H30.5.20）における意見等の概要

### 1 活力

#### 【「世界で最も美しい湾クラブ」総会への出席の成果について】

先月の「世界で最も美しい湾クラブ」総会（フランス）に知事が出席され、富山湾の魅力のアピールされたと新聞で拝見したが、具体的にどのような成果があったのか。

#### （知事）

ちょうどこの湾クラブができて20周年という節目のときでもあり、たくさんの方が世界から来られた。来年は富山県が湾クラブに入って5周年になるので、ぜひ総会を開催させてほしいと昨年来から働きかけをし、内定はいただいていたのだが、今回の総会で私がプレゼンテーションすることが条件になって、その後で正式に決まることになるということだったので、参加して少し拙い英語でも話をさせていただいた。

富山県は、立山黒部のように雄大で美しい世界的な観光地も既に持っているのだが、まだまだ知名度不足であること。また、富山湾は、水深1,200メートルぐらいの中で、大変豊かな漁業資源があるというだけではなく、国の決めた環境基準を100%達成しているのは全国で富山湾だけで、それだけ環境に配慮していること。4年前の湾クラブ加盟前から、国連のNOWPAPも誘致してそれを支援していること。湾クラブ加盟をきっかけに、富山マラソンとか、湾岸サイクリングコースを整備してのサイクリング大会の毎年開催、日本で一番大きなヨットレースであるタモリカップ開催に取り組んでいること。また併せて、富山県は医薬品の産業が日本一であるとか、あるいは伝統工芸とか、いろんな面で大変いいところだというような話と、また、来てもらえば、そういう富山湾、あるいは立山黒部、世界遺産・五箇山、国宝瑞龍寺といったような、自然や文化的なスポットだけではなく、鋳物製作とか和紙すきとか、そういった文化的・伝統的なものの体験もできるといったプレゼンをさせていただいたり。また、1,300年前に大伴家持が国守として赴任し、たくさん名歌も出したというようなこともお話しして、何とか、拙いながら皆さんに理解していただいて、おかげで全会一致で、富山県で来年、総会を開くことにしてもらった。

せっかく世界からいろんな方が見えるので、その機会に、富山湾それから富山県の魅力、それも自然や文化、あるいは食べ物、いろんなものをアピールして、富山県の活性化、また、観光振興等々につなげていきたいと思っている。

### 【人手不足について】

富山県は、景気回復基調にある一方で、有効求人倍率が3月末時点で1.99と、かなり人手不足の状況にあり、現在、大学生の新卒の採用活動を行っているが、その確保に大変苦労している。

やはり首都圏や三大都市等からのU I Jターンの促進が、県内産業の基盤強化につながっていくので、その取組みを充実させ、また、県外から県内の大学に進学された学生の方々に県内で就職していただくよう、県としての活動をしっかりと進めてほしい。

私の勤務先では、県のアセアン留学生の受入事業を積極的に活用して、技術者として受け入れた。このようにさまざまな苦労しながら人材確保に向けて努力をしている。

県では、このような状況をどう認識し、どのような対応策をとっていかれるか。

### (知事)

U I Jターンは、この10年で51%から58%台になったが、それをさらに伸ばしていきたい。ただ、今でも、実は6割近いというと、東京都を除くと、多分全国一ではないかと思うので、これ以上はなかなか難しいと思われる。

それとは別に、移住をもっと増やそうということをやっている。移住者のうち、若い人の率がどんどん高くなって、20歳代、30歳代の人々が7割であるから、こういった方々に富山の企業の担い手として、頑張ってもらいたい。

それから、県内出身で県内の大学へ行っている方の県内就職率は非常に高いのだけれども、県外出身で県内の大学にいらっしゃった方の県内企業への就職率は、約2割くらいで、残念ながらかなり低いので、これを何とかしたい。他県の出身だけれども、富山の大学に来て、富山の企業に勤めているOB・OGの方と、県外出身の学生さんの交流会をやるとか。それから、これまで以上に、インターンシップを県内企業でやってもらうとかということで、県内企業の魅力をもっと知ってもらい、就職につなげていくことを、さらに努力していく。

それから、アセアン地域からの留学生の受入れをさらに積極的にやっていきたいと思うし、それに加えて、既に従来から富山大学や県立大学でやっている留学生の受入れをさらに充実強化する。

それから、外国人の技能実習生は、今まで3年間だけだったのが、一定のスキルが身につけば5年まで実習可能になったので、その技能向上につながるように、研修コースを技術専門学院などに設定する。それから、来られたばかりの頃は日本語が不自由な場合が多いので、県としても日本語研修をなるべく早くやって、4年、5年と働いてもらい、将来はご出身の国に戻られても、富山県の企業とネットワークをつくってもらって、Win-Winの関係になるようにしていきたいと思っている。

### 【食品ロス対策について】

今回、食品ロスの対策を富山はどのようにしているか聞きたくて来た。

また、最近はスーパーに行ったら農家の顔が見えるように対策がいろいろされているが、きれいな野菜しか並んでいない。規格外野菜の食品ロスなど、主に農業に対する対策を、県ではどのように考えているか。

#### (知事)

全国的にも食品ロスの問題は非常に大きな問題だが、富山県でも、食品ロスを実際に調べてみると、家庭系の廃棄物の中の食品ロスのほうが2.7万トンで、事業系より多いぐらいの数字になっている。

そこで、主な施策として、「とやま食ロスゼロ作戦」ということで、検討会議をつくって進めている。当然ながら、まずリデュースで発生をできるだけ減らすために、「3015運動」として、例えばパーティーなどの開始後30分と終了前15分は自席で料理を楽しむ「食べきり3015」、それから毎月30日と15日に冷蔵庫等をチェックして食材を使い切る「使いきり3015」などがある。

あるいは、サルベージ・パーティという、余っている食材を持ち寄っておいしい料理に変身させるイベントなのだけれども、こういったことも、婦人会の皆さんとかいろんな方と連携して今進めている。

また、規格外の農産物は、我々も問題意識を持っていて、どうしてもスーパーとかコンビニとかで並んでいるとおりに、見てくれのいい、一定の規格に沿ったものだけ置いてあるケースが多いのだけれども、その規格に合わなくても味はほとんど変わらないと思うので、そのものをそのまま捨てるのではなくて、食材としておいしい料理に変身させられると思うし、有効活用する。これは消費者側の努力も必要だし、できれば事業者の皆さんにももう少しご協力いただけないかと思う。またよく勉強して、有効利用になるように努力してまいりたいと思う。

## 2 未来

### 【地方大学の振興と若者雇用について】

非常に現在好調な富山県の医薬品産業だけれども、県内の製薬企業の経営は今後厳しくなり、将来、以前の売薬と同じように、構造的な不況に陥ることは明らかだと思う。そのため、現在、県としては海外への進出策など講じているが、不十分な気がしている。

県内大学などで育成した若い世代のために、抗体医薬品などバイオ医薬品の県内メーカーの製造環境を整備し、県が中心となって、将来も医薬品生産高1位、「世界の薬都」を目指す産学官連携のコンソーシアムを設立してほしい。

富山県の将来を見据えて、医薬品など富山の強みをさらに伸ばすため、地元大学を中心に産学官が連携した産業振興や、必要とされる専門人材の育成にどのように取り組むのか。

### (知事)

日本を代表するような企業が、医薬品の新たな研究開発拠点を、これまで以上に富山に置こうとされているのは、富山県の医薬品産業の個々の企業がご尽力されている成果だと思う。富山県も、今度、薬事研究所を薬事総合研究開発センターとし、しっかり先端設備をさらに揃えて、バイオ医薬品の開発等を支援しようとしている。

それから併せて、国のほうで、東京一極集中是正のためにも、地方大学の振興と地域産業活性化、人材育成をやるという動きになっており、相当厳しい審査委員会をつくって全国で10ヶ所の支援対象を選ぶということなので、富山県も、県内大学や地元の産業界とご相談をして、まずは医薬品について何とか選んでもらえるようにいま準備をしている。

例えば外国のバーゼル大学あたりから優秀な先生を招聘して、何年か一緒に共同研究をするとか。あるいは富山県内に限らず、東大とか京大とか、いろんなところの優れた研究者を招聘してチームをつくり、まさに世界水準の研究開発をやるといったようなことも考えており、産業界の皆さんと一緒に頑張っていきたいと思う。

また、サマースクールというのをこの7月からやることにしており、東京圏に在学中の学生や大学院生を招聘して、富山県でなければ勉強できないような研究開発や、あるいは製造現場で研修してもらい、その過程の中で、富山県の企業とも人的なネットワークを形成してもらって、就職する際の一つの候補として富山県内の企業も選んでもらう、このようなことも考えており、何とか成果が出ればなというふうに思っている。

それから、海外進出は、薬業連合会や個々の企業としても努力されているわけだけれども、県としても応援させていただいている。今度も台湾に出向き、県でいえば薬業連合会に当たるところと連携協力をする。去年はミャンマーでもそのようなことができたし、今では3年近く前になるが、インドのアンドラ・プラデシュ州は産業までは育っていないが医薬品の原薬がたくさんとれるところで、そういったところとも友好関係を結んで、少し中長期の視点に立って、努力をしてまいりたいと思う。

### 【ひとり親家庭への子育て支援について】

子育て支援サービスの内容が充実し、就学前まではいろいろな減免や補助を受け取ることができ、ひとり親家庭のお子さんや保護者が安心して子育てができる環境になってきている。

しかし、小学校に就学以降、下校時間、下校後の時間、また、夏休み、春休み、冬休みなど、子供を見てもらう場が課題になってくる。子育て協力者が身近にいない家庭にとっては大変なことで、現状として、学童保育は有料で行っているところが多く、夏休み1カ月利用すると、約4万円近くの出費がかかるのが現状である。少しでもひとり親家庭の補助ができるような支援はあるのか。

### （知事）

全国どこでも、放課後児童クラブとか、小学校へ入ったお子さんの預かりというのは、基本は基礎的自治体として市町村の仕事だと思うが、もちろん富山県として、これまでも補助金を出したりして応援している。例えば、ひとり親家庭の学童保育は、昨年度から、特に経済的に厳しい状況にあるひとり親家庭の場合は、その利用料の負担軽減のために、市町村と連携して補助制度をつくっている。しかし、これはあくまで強制できないので、市町村側の申請があればということだけれども、去年は3つの市町、小矢部市、砺波市、入善町で実施。それから、今年からも、新たに3つの市町で、ご希望があるので、黒部市、射水市、舟橋村で実施している。

それから、この地元、富山市については、この県の制度には今、手を挙げていられないようだけれども、市独自に、8月の利用料について確か5,000円ほど減免するという制度があると伺っている。この辺は、県として補助制度をつくり、もし市町村がご希望であれば半分支援するという事はやっているのだけれども、市町村の考え方もいろいろあるので、その点をご理解いただきたいと思います。

一方で、私のほうも、別に8月に限らずオールシーズン支援するこういう制度をつくったので、また、関係市町には、できたら有効活用してもらうように、またお話をしたいと思う。

### 【子育てしやすい職場づくりについて】

3歳までのお子さんを持っている母、保護者が、有給休暇や早退をとりやすい職場づくりのために、対策してほしい。

具体的な奨励の仕方がうまくいっている企業をもっとPRする工夫をすれば、もう少し子育てがしやすくなり、子供の心も安心・安定し、母とのきずなも強くなっていくのではないか。そうして育った子供たちが、大人になり、ふるさと富山県を支えてくれる力になることと思っている。

#### (知事)

お子さんの病気による休暇取得とか早退などもしやすい、働きやすい職場づくりに力を入れてほしいということは、私もぜひそうしたいと思っている。

1つは、いわゆる次世代育成法に基づく一般事業主の行動計画。これは、今でもまだ国は101人以上の企業が対象なのだけでも、富山県はもう5、6年前に、51人以上、さらに準備期間を置いて、昨年からは30人以上の規模の中小企業についても、この仕事と子育てが両立しやすい、一般事業主行動計画をつくることを条例で義務づけている。また、優れた取組みをなさっている企業の表彰制度を設けたり、それから表彰するだけではなく、例えば建設業などでは、一定の場合には、入札のときの入札基準の加点をしたりしている。

それから、「イクボス企業同盟とやま」というのをスタートさせて、今、うれしいことに確か120ぐらいか、企業が参加されている。

例えば、お子さんが3歳未満の場合に利用できる短時間勤務制度とか、所定外労働の制限、残業等の免除、こういったような仕組みも、もう既に国の制度としてもあるし。それから、お子さんが就学前、小学校に入るまでは子供の看護休暇を年5日までとれる、お子さんが2人だと年10日までとれる、時間外労働の制限も、月24時間、年150時間を超える時間外はこれを禁止するというような制度が逐次整備されているので、あとは気兼ねなくそれを利用できる職場風土が大事なので、この点は私としても企業の皆さんにできるだけお話をし働きかけをしていきたいと思っている。

### 【富山県美術館について】

富山県美術館は、昨年3月の一部オープン以来、とても多くの来場者がいらっしやっていて、にぎわっていると思う。

今後、富山県の芸術文化がより発展して向上していくためには、若い世代が芸術文化に親しんだり、体験したり、味わったりすることがとても大切だと日頃から考えている。

富山県美術館で、今後はこういった取り組みを行っていこうとお考えか。

### (知事)

富山県美術館は、おかげさまで、県民の皆さんに随分ご愛顧をいただけて、ありがたいなと思っている。もともとアートとデザインをつなぐという考え方で、今までの近代美術館のよき伝統を受け継いで発展させながらやっていこうと思っているわけだけれども、今の「デザインあ展」のときに、期待以上の多くの方にご来館いただき、大変うれしく思う。

この後、例えばアートでいうと、高野山の金剛峯寺の襖絵を完成された、その披露を兼ねて、日本画家の千住博さんの展覧会をやり、それから、富山県美術館の屋外にあるクマとかハクタカを制作された三沢厚彦さんも全国的に大変人気のある作家さんなので、その彫刻家としての三沢厚彦さんの展覧会をやる。また、学校教育と連携した展覧会もやろうと思っている。

それから、3階のアトリエで創作体験の機会をつくったら、非常に子供たちや親子連れがたくさんいらしてるし、これからも、気軽にお子さんや親子が参加できるようなワークショップをもっと頻繁にやりたいと思う。また、県内の小学校5年生を招いて対話型の鑑賞事業などを実施するとか、富岩運河環水公園のいたち川沿いにプロムナードができているのだが、あそこに子供たちも親しめるような彫刻みたいなものを置いて、定期的にアートイベントもやるとか、お子さんたちの情操教育に寄与したいと思う。

それから、他の文化にもできるだけ触れてもらいたいと思っており、例えば音楽でいうと、室内楽フェスティバルのアウトリーチを富山県美術館で実施できないかと。それから、ミュージアムコンサートを、これまで以上に県内各地でやれないかと思っているが、その一つとして、例えば富山県美術館あるいは水墨美術館などで、これまでも若干はやっていただけだけれども、それを拡充して実施したい。なるべく子供たちに、できるだけ一流の音楽にも触れる機会を増やしていきたい。

なお、県の美術館は、平成17年から高校生以下の方は観覧料を無料にしている、今年4月からは大学生についても、常設展は通年無料、企画展の観覧料は半額にする。実行委員会の企画する展覧会は、ちょっと実行委員会で議論してみなければいけないが、できるだけ若い人が芸術文化に親しむ機会を充実していきたい。また、70歳以上になると常設展は無料にしているの、そういった努力も今後ともしてまいりたいと思う。

### 3 安心

#### 【健康寿命の延伸について】

富山県は、健康寿命日本一を目指す県民運動をしているが、2016年度は、女性14位から4位へ、男性31位から8位へと大躍進したという報告が先ほどもあった。さらに、県では今後、健康寿命日本一を目指し、どのような取り組みを進めていくのか。

#### (知事)

富山県の皆さんは、もちろん大変健康に気を使って、十分いろんな目安はクリアしているのだが、平均をとると、1つは食塩の摂取量が1日に3グラムぐらい多い。それから、野菜の摂取量が平均すると70グラムぐらい少し足りない、野菜一皿分足りない。それから、運動習慣が大体平均すると男女とも2,000歩ぐらい不足しているという数字が出ている。

1つは、これまでの県内の公立小・中学校の給食パンについて、15%減塩化の取り組みを、一昨年度から実施している。それから、お惣菜もやはり塩分がやや多いということで、三世代ふれあいクッキングセミナーの開催とか、また、食生活改善推進協議会の皆さんに家庭訪問してもらい、減塩とか野菜摂取の普及啓発をしている。

それから、今後の取り組みだけれども、昨年、健康寿命日本一応援店の募集をしており、この4月の時点で161店舗に応募していただいているのだが、そういうお店で積極的に野菜たっぷり、あるいは減塩などのメニューを提供していただくといったこととか。また、スマートフォンを活用して、健康づくりに取り組む健康ポイント制度の実施といったこともやっていて、一定のポイントが貯まると、抽選で、例えば電子塩分計などの体に優しい商品を贈呈するとかいったこともやっている。

それから、世代別に見ると、どうしても働き盛りの世代の方々が運動習慣も不足、野菜の取り方も少ないという傾向があるので、これはやはり企業と連携したほうがいいということで、企業の皆さんにお呼びかけし、健康経営という観点から、従業員の方の健康管理にもっと力を入れていただこうとしている。

それから、もう1つは、通勤などの際に、なるべく手軽にウォーキングを楽しむような機運を醸成しようと。ウォークビズとやま県民運動ということで、ノーマイカーデーなどとセットにして、なるべくウォーキングをやらしてもらえようような仕組みを導入しようかと今、検討している。一つ一つは地道なことなのだけれども、今後とも努力していく。



**【予防接種の補助について】**

インフルエンザのワクチンの補助は行う企業が多いが、はしかや風疹の抗体の接種で援助、補助してくれる企業はちょっとあまり聞かないように思う。

このような感染症に対しての予防接種の働きかけを県としても行ってもらえないか。

**(知事)**

インフルエンザとはしかの予防接種などについて、何か支援制度があるかということだけれども、インフルエンザについては補助制度があり、これは有効活用に使っていただきたい。

それから、はしかについては、もう少しよく勉強してみるけれども、国の補助制度としてはないと思う。(※)

いずれにしても、感染症対策は大切なので、また国の考え方や全国の状況などもよく調べて、それから、どうしてもこれは市町村が基礎的自治体であるから、市町村とも協議をして、対応していきたいと思う。

(※) 県内では、3市町（南砺市、入善町、朝日町）がMR（麻しん・風しん）ワクチンの接種に係る費用を助成している。